

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	有限会社 新上五島在宅ケアセンター		
事業所名	グループホームあいらん一番館		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	平成22年1月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく地域の中で明るく楽しく暮らし続けられるよう、利用者・家族・職員の絆を大切にしながら笑顔のたえない安らぎのある生活環境を目標にかかげ、利用者本位・利用者と共にをモットーに地域の一員として貢献して行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上五島の海に囲まれた住宅地に設立されたホームである。グループホーム以外にもデイサービスなど運営されていて、ホーム入居者とデイサービス利用者は毎日行き来がある。保育園や小中学校が近くであり、「全ての島民が顔なじみである」と言っても過言ではない地域性で、地域との交流は頻繁にある。ホームやデイサービスの行事が、町民の行事として周知されており、職員も各町内の行事に請われるなど活躍の場を広げられている。ホーム入居者やデイサービス利用者や家族を含めた旅行には会社の力量の大きさを感じさせられる。訪問時に偶然、入居者の一人が米寿の祝いで家族がケーキや花、赤飯など持ち込まれて記念写真を撮るなどされており、和やかで暖かいホームであることを印象付けられた。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年1月26日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心と心のつながりを、人と人とのふれあいを大切に、」の基本理念に基づき、家族・地域の方々とのつながりを大切に、利用者様がその人らしく地域の中で安心して暮らして行けるようコミュニケーションを多く取り、信頼関係を深めている。	法人としての理念の下に、ホームとして「いつも笑顔で楽しく暮らしましょう」との目標を掲げ、介護の実践に活かされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	笑顔でのあいさつを基本に、外出した際は、気軽に話をして行き、地域行事への参加等を通じて地域の方々との交流を重視した活動を行っている。また、地元の保育園児・学生・島外からの訪問者・ボランティア等の受入も積極的に行なっている。	事業所はデイサービスが1階、ホームが2階にある。ボランティア受け入れ時は、デイサービスとホームが一緒になって楽しんでいる。隣接の保育園児や近所の小学生との交流はほぼ毎日あり、常に子供たちの声が聞こえている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー養成講座、県外からの講師を迎えての研修会を行い、実習生・ボランティアの受入も行なっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事内容や、日頃の様子等を報告し、民生委員や家族の意見等を聞き、サービスに活かして行く様努めている。	一年に2～3回開催されている。殆ど入居者の報告や行事予定などで、各委員や家族の意見は報告に対する発言となっている。	運営推進会議を活かしたサービスの質の向上のために行事に、運営推進会議を取り入れるなど、視点を変えたホームの実際を体験してもらい次の会議の議題とされるなどで、2ヶ月に1回の開催を期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に意見交換をしたり、行事への参加で交流を深めている。	入居者の中には福祉関連の手続きが必要な方もおられ、報告・連絡・相談など一連の協力関係はできている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろんのこと、言葉に対する拘束をしないよう職員全員が理解しており実践している。	入居者に対する「尊厳」を常に職員は意識して、介護の実践をされている。身体拘束廃止に向けた研修も、法人内で積極的に取り組まれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の大先輩である利用者様に対し、常に尊敬の意を持って接するよう心がけている。笑顔で優しい言葉かけを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに職員への説明を行なっている。対応が必要とされる利用者様は今のところいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・家族を交えて十分に説明し、意見交換を行い、理解・同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情を言いにくい状況を作らないよう、民生委員を通じたり、家族が訪問した際、積極的に会話をして気軽に話せるような雰囲気づくりを心がけている。	家族とのコミュニケーションを大切にされている。それでも言いにくい事は民生委員を通して、家族の要望をホームに伝えることで、運営に反映できるような姿勢が示されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を行なったり、ミーティングで意見を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気づくりに心がけている。	職員の離職は少なく、常に経営者とユニット管理者は職員の意見を汲み取るように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を立て、それに向けての仕事に対する向上心を高めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修会への参加や資格取得できるように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設との意見交換の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅へ訪問し、気軽に話しやすいような雰囲気をつくるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅へ訪問し、気軽に話しやすいような雰囲気をつくるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要であれば居宅のケアマネージャーと連携しながら対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「行ってきます」「ただいま」等一緒に生活しているという意識を職員が持って声かけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに来られた際は必ず本人の状況を説明し、相談・助言をいただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた所に散歩・ドライブに出かけている。	1階のデイサービス利用者と、ホームの入居者との馴染みの関係ができており、近隣住民も訪問しやすい雰囲気がある。家族行事への参加には、連携を取りながら送迎支援をするなど、柔軟に対応されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のアクティビで交流を深めていき、職員が間に入りより良い関わりができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初盆等には訪問したり、広報誌や行事の案内を出している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中でさりげなく聞き出したり、表情や言葉から意見を推し測ったり、家族にも協力をお願いしている。	入居者同士の会話や職員とのコミュニケーションと、表情や行動から思いの把握に努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅へ訪問し状況を見たり、家族・近所の方々から情報を提供していただいている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムを把握し、残存能力を活かした生活ができるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、職員全員で意見交換し、家族・利用者様からの要望・意見も取り入れている。	定期的なカンファレンス時に意見交換やサービスの実施状況について話し合われている。しかし、介護計画とサービスの実施内容が、日々の生活記録に反映できているかが分かりにくい。	日々の記録のあり方を見直し、サービスの実施内容が反映された記録となり、本人の現状に即したケアプランとなることを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の体の状態・様子・訴え・気づいた事等記録している物をカンファレンスで見直し、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族の要望にいつでも気軽に応じられるような体制づくりに事業所全体で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域との様々な接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアの協力を呼びかけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	車で10分くらいの距離に総合病院があり、定期的に受診・相談・助言をいただいている。	島内のかかりつけ医を軸にして、病状の変化に伴い協力医療機関と連携をとり、職員と家族が同伴して受診支援をされている。遠方の他科受診は病状の変化がない場合は家族が連れて行かれるが、ホームから電話で確認をとり連携を確実にされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師が1名いるが、病院・デイサービスの看護師と連携しながら相談・助言をいただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに病院へ伺い、情報交換をしている。日頃からも病院へ伺った際には相談・助言をいただきコミュニケーションを図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様・家族の意思を尊重し、主治医の相談・助言に沿ったケアを提供している。急変した場合もすぐに対応していただけるよう日頃から密に連携を図っている。	看取りの支援の基準はあるが、指針の作成に取り組む姿勢が窺える。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置・連絡網など。急変時に備えての対応について定期的なミーティングで確認している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施。近所の方々からの協力も得ている。	消防署での災害対策の研修を受けており、自主訓練を含めて年2回行われている。法人内の施設での訓練にも参加し、地元住民の参加や協力体制ができている。自然災害は離島としての特殊性から常に危機管理の意識を持たれており、スプリンクラーの設置を予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人と目線を合わせて一対一での対応。笑顔で優しい言葉かけを行なうよう心がけている。日頃から注意し、ミーティング等での話し合いの中でも関わり方について確認している。	入居者の尊厳を常に意識して介護の実践をされている。トイレへの誘導や衣類交換などは、他の入居者には分からないように対応されており、介護目標の「笑顔で楽しく暮らす」を念頭に置かれている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様それぞれに合わせて声をかけている。表情等を見ながら、なるべく本人が自分で決められるような声かけを行なっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気持ちに配慮しながらできるだけそれぞれのペースに合わせた支援を行なっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時はお化粧をしたり、美容師免許を持った職員がその人に合わせたカットをしている。また、鏡をいつでも見れるよう、洗面所以外にも各居室に置いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、下ごしらえ・味付け・食器洗い等一緒に行い、同じテーブルを囲んで楽しく話をしながら食事をしている。	献立は入居者と共に考えたり、近所や知り合いから差し入れの野菜や鮮魚を加え、入居者の希望を聞いて献立の一部変更をされている。下ごしらえなどを通して食事を楽しむ支援をされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状況に応じて味付け・硬さ・大きさを調整している。毎食後、摂取量も記録し、体調に合わせた献立にし、食べられない時は補食している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の状況に合わせて職員がお手伝いしながら行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用しないケアをしている。排泄表を利用し、一人一人の排泄パターンを把握し、さりげなく声かけしている。	入居者の排泄パターンを把握して、昼間のトイレ誘導や尿取りパットも使わない支援をされている。本人の希望や排泄状況で夜間のみポータブルトイレの使用もされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や野菜を多く取り入れた献立、適度な運動を行い、自然排便を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、羞恥心・恐怖心を与えないよう一対一で対応している。	毎日入浴できる体制をとられ、入浴剤を変えるなど楽しい入浴支援をされている。以前は就寝前に入浴を希望される入居者もあり、勤務者のシフトを変えて対応されていたこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促している。寝付けない時は添い寝したり、リビングで一緒に話をして過ごしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が本人の病気のこと・どんな薬を飲んでいるのか・副作用のこと等について把握し、服薬ミスの無いよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事づくり・掃除・洗濯物たたみ等できるところは一緒に行い、感謝の意を伝えている。また、植木の世話・袋作り等の特技も職員が教えてもらいながら一緒に行なっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩・ドライブに出かけたり、定期的に外食・ピクニック等を実施している。また、買い物支援・家族との外出も積極的に受入している。	天気に合わせて散歩やドライブ、定期的な外食や法人施設全体で家族も含めた一泊旅行など様々な企画を实践され、地域になくはない存在となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人・家族と相談しながら希望があれば小遣いを持つ支援をしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族・知人からの手紙・電話が良くあり、気軽にやり取りができています。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとの花を生けたり、飾りつけを行なっている。自然に光を取り入れたり、こまめに換気を行なっている。また、利用者様の好みを取り入れた音楽を流し、明るく過ごしやすい雰囲気づくりをしている。</p>	<p>共有空間は明るく、ワンフロア2ユニットの特色を活かし、広々としている。窓越しに隣接の保育園児や学生に手を振られるなど生き生きと過ごされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各居室を利用している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は本人が愛用していたタンスや布団等を持ち込み、担当の職員と一緒に本人の好みに合わせた飾りつけをしている。</p>	<p>各居室は使い慣れた家具を持ち込まれている。家族が衣替えの時期に衣類を交換されている入居者も多く、居心地の良い居室となっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な所に手すりの設置。危険物は置かないようにしている。また、各自居室の目印となるよう写真・似顔絵や飾りつけ分かりやすくしている。</p>		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	有限会社 新上五島在宅ケアセンター		
事業所名	グループホームあいりん二番館		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	平成22年1月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年1月26日		

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心と心のつながりを、人と人とのふれあいを大切に」の基本理念に基づき、家族・地域の方々とのつながりを大切に、利用者様がその人らしく地域の中で安心して暮らして行けるようコミュニケーションを多く取り、信頼関係を深めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	笑顔でのあいさつを基本に、外出した際は、気軽に話をして行き、地域行事への参加等を通じて地域の方々と交流を重視した活動を行なっている。また、地元の保育園児・学生・島外からの訪問者・ボランティア等の受入も積極的に行なっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー養成講座、県外からの講師を迎えての研修会を行い、実習生・ボランティアの受入も行なっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	行事内容や、日頃の様子等を報告し、民生委員や家族の意見等を聞き、サービスに活かして行く様努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に意見交換をしたり、行事への参加で交流を深めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろんのこと、言葉に対する拘束をしないよう職員全員が理解しており実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の大先輩である利用者様に対し、常に尊敬の意を持って接するよう心がけている。笑顔で優しい言葉かけを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに職員への説明を行なっている。対応が必要とされる利用者様は今のところいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・家族を交えて十分に説明し、意見交換を行い、理解・同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情を言いにくい状況を作らないよう、民生委員を通じたり、家族が訪問した際、積極的に会話をして気軽に話せるような雰囲気づくりを心がけている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を行ったり、ミーティングで意見を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気づくりに心がけている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を立て、それに向けての仕事に対する向上心を高めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修会への参加や資格取得できるように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設との意見交換の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅へ訪問し、気軽に話しやすいような雰囲気をつくるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅へ訪問し、気軽に話しやすいような雰囲気をつくるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要であれば居宅のケアマネージャーと連携しながら対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「行ってきます」「ただいま」等一緒に生活しているという意識を職員が持って声かけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに来られた際は必ず本人の状況を説明し、相談・助言をいただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた所に散歩・ドライブに出かけている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のアクティビで交流を深めていき、職員が間に入りより良い関わりができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初盆等には訪問したり、広報誌や行事の案内を出している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中でさりげなく聞き出したり、表情や言葉から意見を推し測ったり、家族にも協力をお願いしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅へ訪問し状況を見たり、家族・近所の方々から情報を提供していただいている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムを把握し、残存能力を活かした生活ができるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、職員全員で意見交換し、家族・利用者様からの要望・意見も取り入れている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の体の状態・様子・訴え・気づいた事等記録している物をカンファレンスで見直し、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族の要望にいつでも気軽に応じられるような体制づくりに事業所全体で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人と地域との様々な接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアの協力を呼びかけている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>車で10分くらいの距離に総合病院があり、定期的に受診・相談・助言をいただいている。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホームに看護師が1名いるが、病院・デイサービスの看護師と連携しながら相談・助言をいただいている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>こまめに病院へ伺い、情報交換をしている。日頃からも病院へ伺った際には相談・助言をいただきコミュニケーションを図っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者様・家族の意思を尊重し、主治医の相談・助言に沿ったケアを提供している。急変した場合もすぐに対応していただけるよう日頃から密に連携を図っている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急処置・連絡網など。急変時に備えての対応について定期的なミーティングで確認している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に消防訓練を実施。近所の方々からの協力も得ている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人と視線を合わせて一対一での対応。笑顔で優しい言葉かけを行なうよう心がけている。日頃から注意し、ミーティング等での話し合いの中でも関わり方について確認している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様それぞれに合わせて声をかけている。表情等を見ながら、なるべく本人が自分で決められるような声かけを行なっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気持ちに配慮しながらできるだけそれぞれのペースに合わせた支援を行なっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時はお化粧をしたり、美容師免許を持った職員がその人に合わせたカットをしている。また、鏡をいつでも見れるよう、洗面所以外にも各居室に置いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、下ごしらえ・味付け・食器洗い等一緒に行い、同じテーブルを囲んで楽しく話をしながら食事をしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状況に応じて味付け・硬さ・大きさを調整している。毎食後、摂取量も記録し、体調に合わせた献立にし、食べられない時は補食している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の状況に合わせて職員がお手伝いしながら行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用しないケアをしている。排泄表を利用し、一人一人の排泄パターンを把握し、さりげなく声かけしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や野菜を多く取り入れた献立、適度な運動を行い、自然排便を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、羞恥心・恐怖心を与えないよう一対一で対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促している。寝付けない時は添い寝したり、リビングで一緒に話をして過ごしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が本人の病気のこと・どんな薬を飲んでいるのか・副作用のこと等について把握し、服薬ミスの無いよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事づくり・掃除・洗濯物たたみ等できるところは一緒に行い、感謝の意を伝えている。また、植木の世話・袋作り等の特技も職員が教えてもらいながら一緒に行なっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩・ドライブに出かけたり、定期的に外食・ピクニック等を実施している。また、買い物支援・家族との外出も積極的に受入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と相談しながら希望があれば小遣いを持つ支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・知人からの手紙・電話が良くあり、気軽にやり取りができています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を生けたり、飾りつけを行なっている。自然に光を取り入れたり、こまめに換気を行なっている。また、利用者様の好みを取り入れた音楽を流し、明るく過ごしやすい雰囲気づくりをしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室を利用している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は本人が愛用していたタンスや布団等を持ち込み、担当の職員と一緒に本人の好みに合わせた飾りつけをしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な所に手すりの設置。危険物は置かないようにしている。また、各自居室の目印となるよう写真・似顔絵や飾りつけ分かりやすくしている。		